

令和3年度 全国学力・学習状況調査 大阪市の結果

大阪市教育委員会

調査全体の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象 小学校第6学年の全児童 中学校第3学年の全生徒

3 調査内容 (1)教科に関する調査 国語 算数・数学

(2)質問紙調査 児童生徒に対する調査 学校に対する調査

4 調査方式 悉皆調査

5 調査日 令和3年5月27日(木)

6 調査を実施した学校・児童生徒数 小学校 286校 17,971人 中学校 130校 15,551人

平均無解答率

※平均無解答率の値は、小さいほど良好な結果を表しています。

	H30			R1			R3			
		大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差	大阪市	全国	全国との差
小学校 国語	A問題	3.4	3.5	-0.1	6.3	6.2	0.1	3.4	4.3	-0.9
	B問題	4.1	3.8	0.3						
小学校 算数	A問題	2.0	2.5	-0.5	2.6	2.7	-0.1	2.4	2.6	-0.2
	B問題	7.4	7.9	-0.5						
中学校 国語	A問題	3.6	3.1	0.5	3.5	2.6	0.9	5.1	4.4	0.7
	B問題	4.1	3.0	1.1						
中学校 数学	A問題	3.7	3.3	0.4	8.8	7.3	1.5	12.3	11.2	1.1
	B問題	14.9	12.6	2.3						

学力向上の取組と本年度の教科に関する調査の結果概要

本市においては、「大阪市教育振興基本計画」に基づき、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組を推進してきました。具体的には、全小中学校を4つのブロックに分け、ブロックごとの課題を分析し各学校の状況に応じた取組を推進する「ブロック化による学校支援事業」や、指導主事が授業改善に向けた指導助言や校内研修等への支援などを行う「学力向上サポート訪問」、基礎的・基本的な学習内容の理解度を把握し個に応じた支援につなげる「単元別確認シート」の実施など、教育委員会と学校が一体となって取組を進めてきました。その結果、着実に全体的な改善傾向にあり、平均正答率の対全国比について、とりわけ小学校国語においては、令和元年度と比べて大きく伸びが見られました。平均無解答率については、小中学校ともに令和元年度と比べ改善が見られました。また学力層に着目した分析では、令和元年度と比較すると、学力に課題の見られる児童生徒(区分IV)の割合において、小中学校ともに全国との差が縮まりつつあります。しかしながら、全ての教科において依然として全国との差があり、引き続き改善に向けて取組を進めていく必要があります。今後も指導主事と学校との連携を密にし、各学校や子ども一人ひとりの課題に応じた取組を推進するなど、よりきめ細かな支援を通して大阪市全体の学力向上につなげていきます。

※全国の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を「対全国比」として表しています。

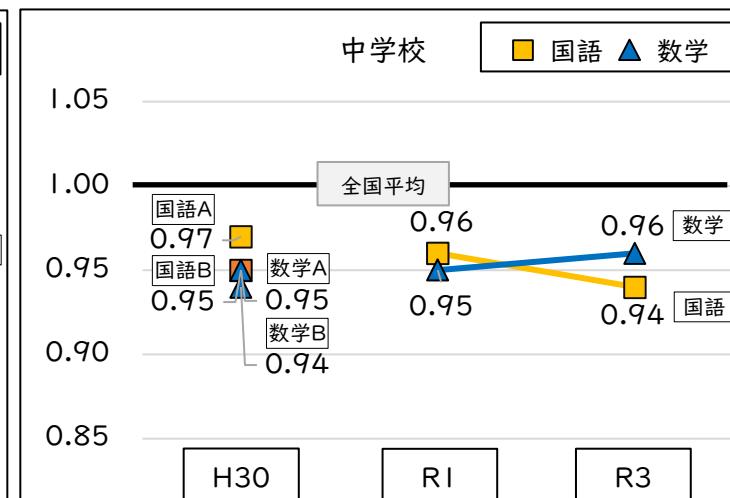
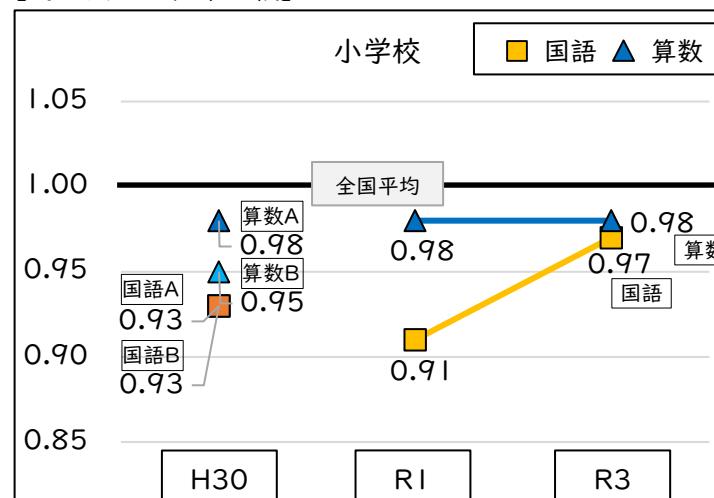
※平成30年度調査までは、主として「知識」を問うA問題と、主として「活用」を問うB問題の2種類が出題されていました。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症にかかる状況及び学校教育への影響等を考慮し、実施されていません。

平均正答率と経年比較グラフ

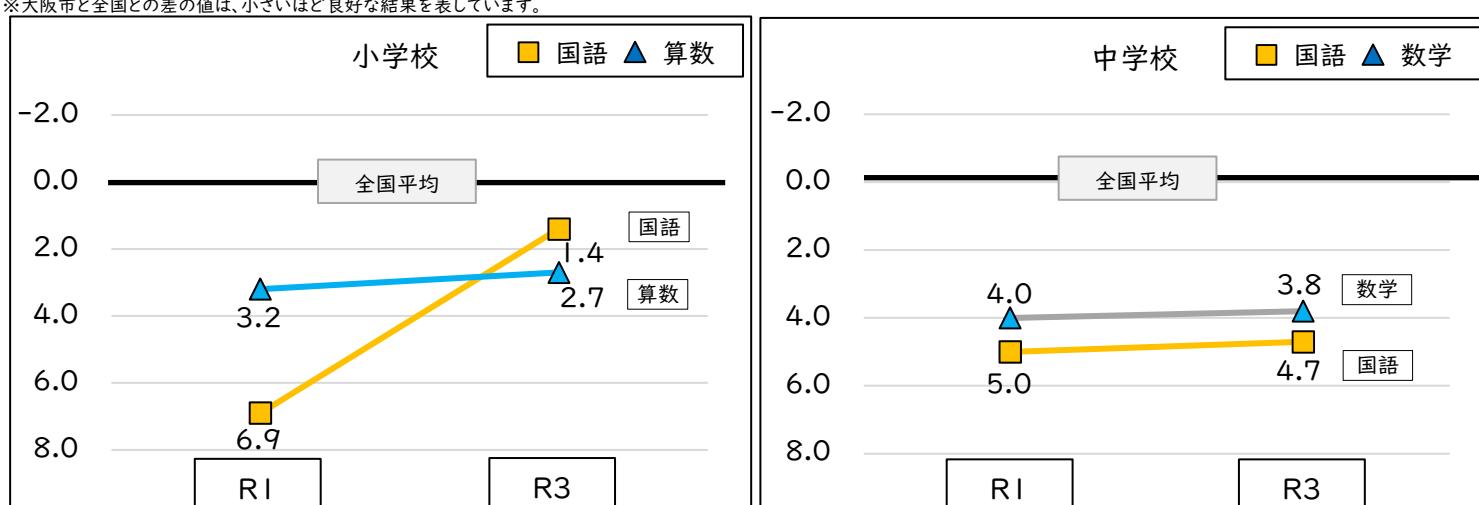
	H30			R1			R3			
		大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比	大阪市	全国	対全国比
小学校 国語	A問題	66	70.7	0.93	58	63.8	0.91	63	64.7	0.97
	B問題	51	54.7	0.93						
小学校 算数	A問題	62	63.5	0.98	65	66.6	0.98	69	70.2	0.98
	B問題	49	51.5	0.95						
中学校 国語	A問題	74	76.1	0.97	70	72.8	0.96	61	64.6	0.94
	B問題	58	61.2	0.95						
中学校 数学	A問題	63	66.1	0.95	57	59.8	0.95	55	57.2	0.96
	B問題	44	46.9	0.94						

【対全国比の経年比較】



【学力に課題の見られる児童生徒(区分IV)の経年比較(大阪市と全国との差)】

※大阪市と全国との差の値は、小さいほど良好な結果を表しています。



質問紙調査の結果概要

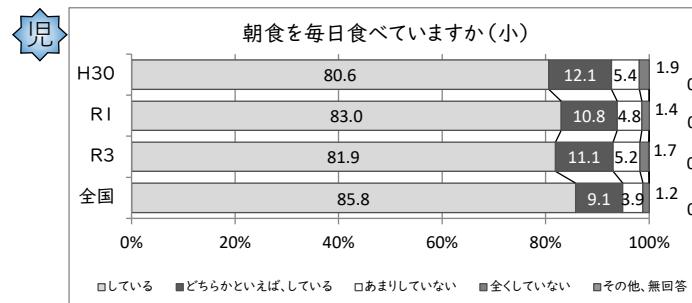
児童質問紙

生徒質問紙

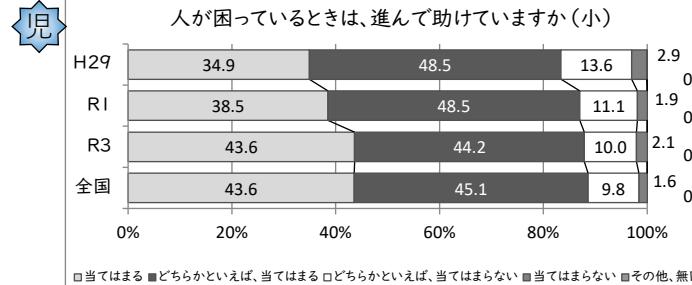
学校質問紙

- 「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、令和元年度と比較すると小学校ではやや減少し、中学校では大きな変化はありませんでした。全国と比較すると、小中学校ともにやや下回っています。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、今年度は特に中学校で増加しました。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、平成29年度と比較すると特に中学校で増加しました。しかし、全国と比較すると小中学校ともに下回っています。
- 「学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」という質問に対して肯定的な回答をした学校の割合は、平成29年度と比較すると小中学校ともに増加しており、全国と比較しても上回っています。しかし、児童生徒と学校の調査結果に差が見られるため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたさらなる授業改善が必要です。
- 「授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか」という質問に対して令和元年度と比較すると、中学校では勉強時間が増加傾向にありますが、小学校では減少傾向にあります。教科の平均正答率とのクロス集計によると、勉強時間が長くなるほど平均正答率が高い傾向が見られています。授業時間以外の学習習慣の定着に向けた取組が必要です。
- 「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強に不安を感じましたか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校で約60%、中学校で約65%であり、全国と比較すると上回っています。
- 児童生徒の心理面には様々な変化が見られることから、今後も、児童生徒の心身の状況や学習状況の把握に努めるとともに、一人ひとりに寄り添った心のケアや学習支援、学習環境の充実など、きめ細かな支援を進めていきます。

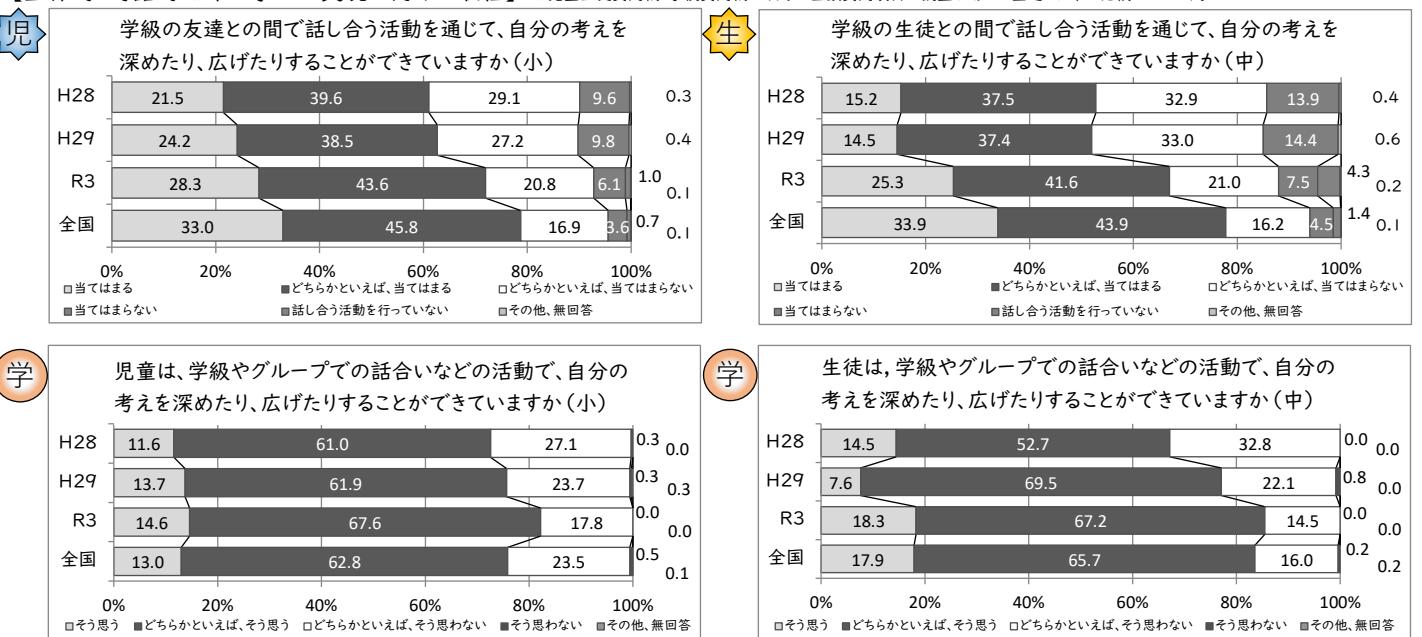
【基本的生活習慣】



【規範意識】



【主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組】

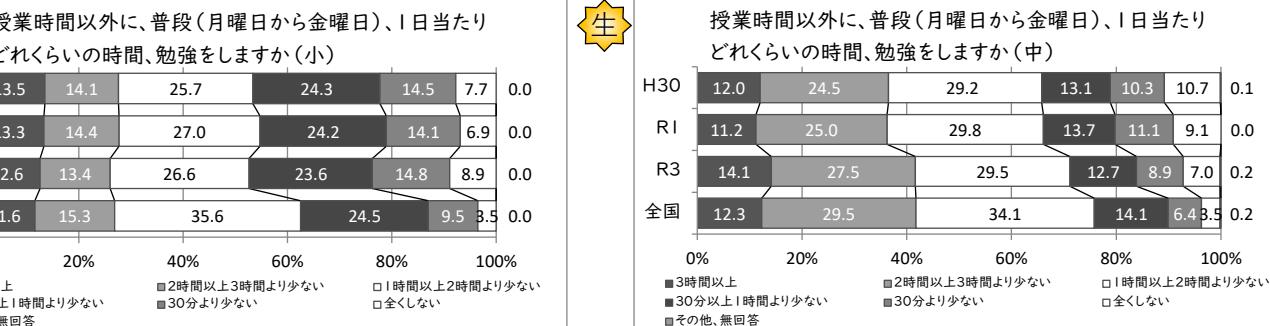
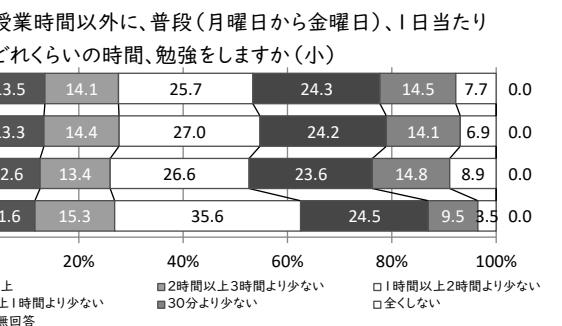


【学習習慣】

児童質問紙

生徒質問紙

学校質問紙

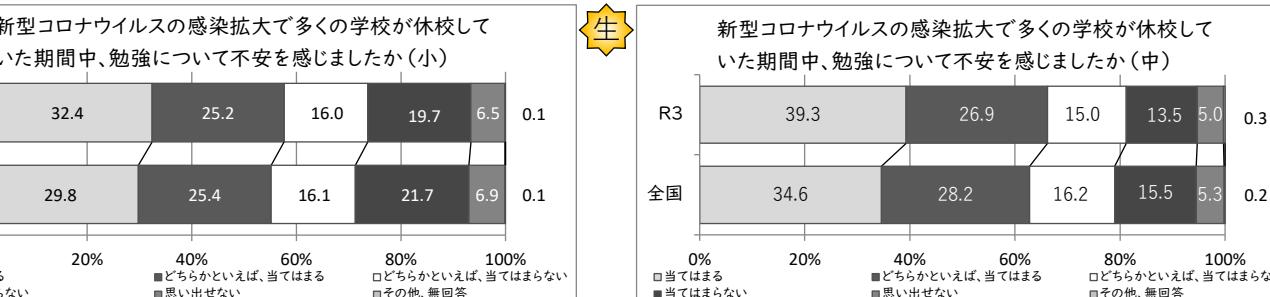
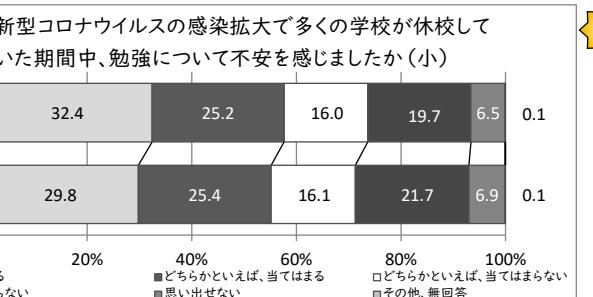


【新型コロナウイルス感染症の影響】

児童質問紙

生徒質問紙

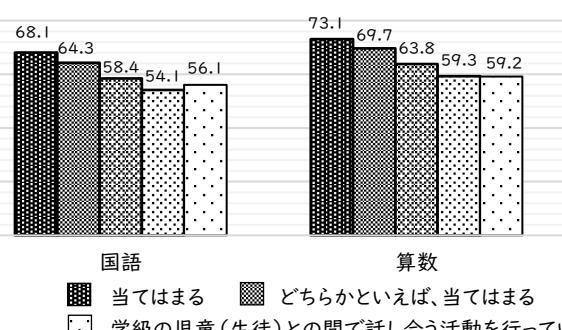
学校質問紙



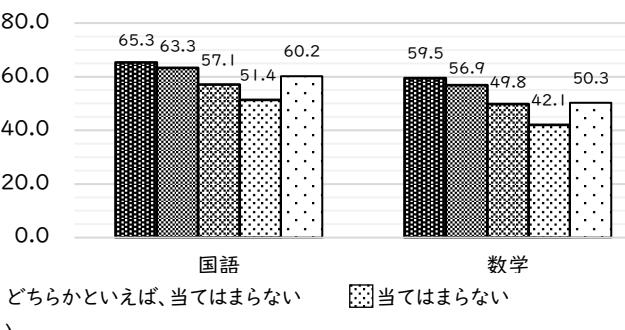
教科の平均正答率と質問紙調査のクロス集計結果

学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

小学校



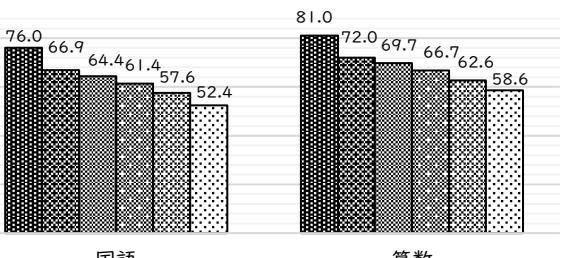
中学校



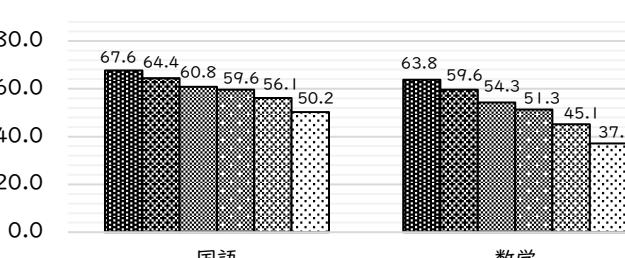
「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」という質問に対して、肯定的に回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

小学校



中学校



「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、時間が長くなるほど教科の平均正答率が高い傾向が見られます。